

## 被ばく医療プロフェッショナル育成計画

実施機関：弘前大学（総括責任者：佐藤 敬）

実施期間：平成 22～26 年度

### プロジェクトの概要

本事業では、国の原子力政策における危機管理対策の一環として、被ばく医療に関わる高度な専門的知識、能力や技術を有する人材を育成し、医療、教育・研究及び行政機関等において、被ばく医療に対応できる体制を構築することにある。そのために、弘前大学に設置する「被ばく医療総合研究所」を母体とした人材育成及び研究拠点を基軸にその任にあたる。また、当該施設の被ばく医療に関わる国際拠点化計画に基づき、国際的連携の涵養も取り入れた人材育成を行う。対象者は、弘前大学博士後期課程在籍者及び医療、教育・研究及び行政各機関等に従事する現職者を中心とする。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性が見通し	中間評価の反映
S	s	a	a	a	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

被ばく医療プロフェッショナルを各医療領域で育成しつつある本プロジェクトは、大学院後期課程相当の高度人材の育成プログラムとして地域固有の問題解決に即効性のある人材を供給しており、地域における重要性とともに高く評価できる。また、地域内にとどまらず福島第一原子力発電所事故の際の社会的な貢献も大きいことなど、結果として時宜を得たプロジェクトとなっていることもあり、質量ともに高い成果を上げている。原発立地県としての青森の試みとして、今後の継続的発展に期待する。

- ・**目標達成度**：5年間の養成人数 10 名の目標を大きく超える 31 名の修了者を輩出した点は高く評価できる。また、県内の病院、消防、行政、原子力関連企業等から受講生が参画し、修了生を中心とした青森県被ばく医療プロフェッショナルネットワーク会議を構築したことも評価できる。

- ・**人材養成手法の妥当性**：学内外の専門性の高い講師陣を揃えて教育を実施し、受講生に各々専門テーマを設定するなど高い学術性を目指した意欲的な取組として評価できる。被ばく医療には医療各分野・職種の連携、協働を必要とする観点から、医科学、科学両コースにて医師をはじめ、各分野の治療、汚染検査、大学等教育、行政、企業等の多様な職種の人材を育成したこと、また外部評価などを通じて客観的な評価検証体制が確立されていることも評価できる。今後は、養成カリキュラムの具体的提示などを通じた一般への広報活動に期待する。

- ・**実施体制・自治体等との連携**：青森県のほか、関係機関との連携を取りながら被ばく医療体

制の構築を図っており、特に、青森県被ばく医療プロフェッショナルネットワーク会議が県主催にて行政や消防などの参加も得て開催されていること、県の緊急対応訓練の企画、実施に修了生が貢献していることは評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：修了生の成果発表の場としての英文誌の刊行や学术论文の投稿、福島第一原子力発電所事故の際の現地での被災者支援（汚染検査、住民対応）への貢献等の成果は評価できる。今後は、修了生のネットワークが事故等の発生の際に効果を発揮するよう広報活動や他学部への波及にも注力することを期待する。

・**継続性・発展性の見通し**：弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程に被ばく医療コースを発展的に設置し、既に2名の受講生の育成が行われていることや、継続事業に対し、学内予算措置に加え、県からの財政支援が行われていることは高く評価できる。弘前大学の第3期中期目標・中期計画における重点戦略として「被ばく医療における安心・安全のための国際的な教育・研究拠点形成事業」を掲げ、本プログラムをその中に位置づけるなど、今後とも一層の発展が期待できる。

・**中間評価の反映**：養成された人材の活躍のための取組を検討するため、被ばく医療人材育成推進連絡協議会を設置するなど、中間評価に概ね適切に対応していると評価できる。